



キスミレ

1、平成 28 年度作業報告－4

葦毛湿原では、伐採した木の処理も終わり、平成 28 年度の植生回復作業も無事終了しました。今回は処理した木の量が多く、木質チップとしてリサイクルした分が 13.29 トン、焼却した分が 6.81 トン、合計 20.1 トンになり。初めて 20 トンを超えました。これ以外にも、薪として利用している分は重量を量っていませんが、少なくとも 3 トン以上はあったと思います。作業日数は延べ 23 日、参加人員は延べ 545 名です。多くの方に参加いただき、順調に作業を進めることができました。ありがとうございました。

平成 28 年度の作業は一の沢湿地の復活が主な作業になりました。これまでは森に埋もれてまったく分からなかった一の沢の形が分かるようになりました。三の沢とは異なり、水の流れる部分が周りよりやや低くなっていることが分かり、沢であるということがはっきり観察できるようになりました。

1) G・S 地点（一の沢）

一の沢は G・S 地点の境に、両地点にまたがるようにあります。右上写真は作業前の状況ですが、写真左が G 地点、右が S 地点になります。手前（G 地点）にはヌマガヤの群落が見え、この部分がかろうじて湿地として残っていた部分です。ミズゴケが繁茂して堆積し、土も溜まり、作業前には水の流れはほとんど確認できませんでした。

G 地点の作業面積は約 500 m²、伐採した木は 474 本です。大径木は直径 40cm 程度のスギで、大半はイヌツゲ等の小径木です。作業後は一の沢全体が見通せるようになりました。



G・S 地点作業前（北から 2016 年 9 月 25 日）

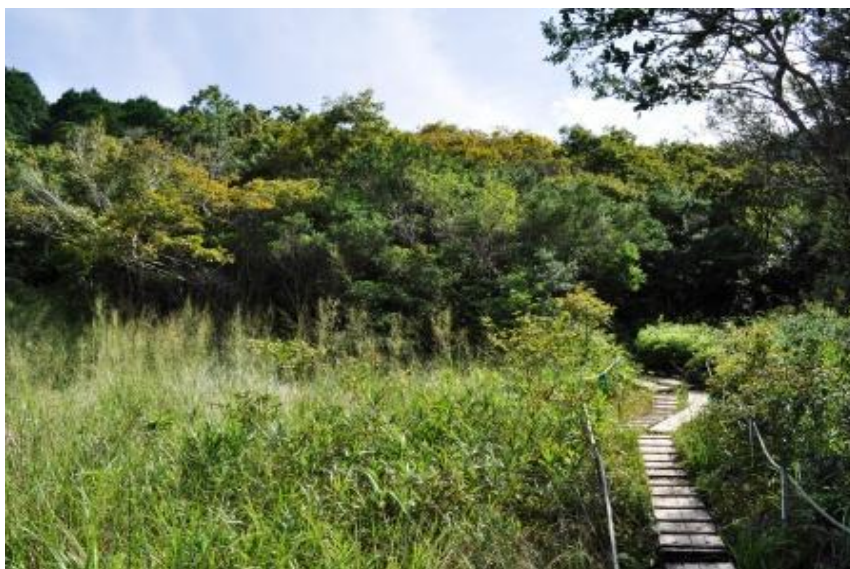


G・S 地点作業後（北から 2017 年 4 月 28 日）

2) S地点（一の沢）

S地点は一の沢の西側にあたります。右上写真は作業前で、S地点全体が完全に森林化し、暗い森に覆われている状態です。右手に木道が見えますが、奥の森に入る直前の部分の木道沿いにはミズゴケが繁茂していました。かろうじて日照がある部分だけにミズゴケがありました。木道右側はH地点で、親子岩があるところ です。

S地点の作業面積は約900㎡、伐採した木は747本です。伐採作業は、湿地部分にあるノリウツギ等の湿地性の木を選択的に残し、湿地周辺は皆伐しました。下流の林縁部の木道近くはネザサやコシダが繁茂し、根の層がマット状に堆積していることが分かりました。このマット状の根の堆積があるところは、かつて良好な湿地だったところで、これまでの他の地点での観察から除去することで湿地に戻ることが予想できます。



S地点作業前（北から 2016 年 9 月 25 日）



S地点作業後（北から 2017 年 4 月 28 日）



S地点作業前（南から 2016 年 9 月 25 日） **S地点作業後**（南から 2017 年 4 月 28 日）

上写真はS地点内部から下流を見たところです。作業前はイヌツゲ等の木に覆われ暗い森になっており、全く下流が見渡せませんでしたが、伐採後は日照が確保され明るくなり、遠くの山まで見渡せるようになりました。

右上写真は作業後の一の沢の全体を上流から見たところです。写真手前の黒くなっている部分は、湿って地表面に水が見えています。中央の白い礫が見えている部分は一の沢の水が流れている部分で水量が多いために表土が洗い流されている部分です。奥の下流側の緑色になっているところはかろうじて湿地として残っていた部分です。

つまり、この部分が一の沢の本体で、周辺よりやや低くなって水量が多いことが分かりました。三の沢では平坦な地表面を面的に水が流れていましたが、一の沢では浅い谷状になって、明らかに下刻されており、三の沢より水量が多いことを示しています。

一の沢から三の沢のうち、湿地として最も良好だったのは水量の多い一の沢で、葦毛湿原では見られなくなってしまったサワランやミカワシオガマが数多く咲いていたそうです。画面手前では、ショウジョウバカマやミズギボウシが多く発芽しています。

右下写真は一の沢の中流部から下流を見たところです。中央に大きな切り株があり、この木の根がマット状に広がり、盛り上がって島状になっています。今年度の作業で一の沢はバックホーで抜根する予定です。

湿地はこのようなマット状の根の層に覆われ埋もれています。これまでの他の地点の観察から、丁寧に除去することにより、良好な湿地に戻ることが分かりました。



一の沢上流から下流へ（2017年5月6日）



一の沢中流から下流へ（2017年5月6日）

3) T地点(一の沢)

T地点は一の沢の東側で湿地の日照を確保するために林縁部を10~20m程の幅で皆伐しました。画面奥の帯状に白くなっているところです。この部分は乾燥しており、白いチャートの礫が目立っています。今後は湿地林縁部の草地として維持して行く予定です。

T地点の作業面積は約800m²、伐採した木は602本です。

今回行った一の沢の作業は、G・S・T地点の合計で約2,200m²、伐採した木は1,823本になりました。

4) H地点(一の沢)

H地点は親子岩の周辺で大規模植生回復作業を開始する前の6~7年前に植生回復作業で木を伐ったところです。木を伐って除草しただけで、抜根はしませんでした。

その後、伐り株からは多くのヒコバエが出て、コシダやネザサが繁茂し元に戻り、湿性植物は復活しませんでした。かつてはミミカキグサやモウセンゴケが見られる良好な湿地だったと言われています。

現在はコシダやネザサ、灌木の根の層が全体を覆っていますが、一部でミズギボウシが発芽し、ハルリンドウが開花しました。今年度の作業で、バックホーで根の層を除去する予定です。除去後3~4年で昔のような良好な湿地に戻ると予想しています。



T地点作業後(2017年4月28日)



H地点作業前(2016年9月25日)



H地点作業後(2017年4月28日)